

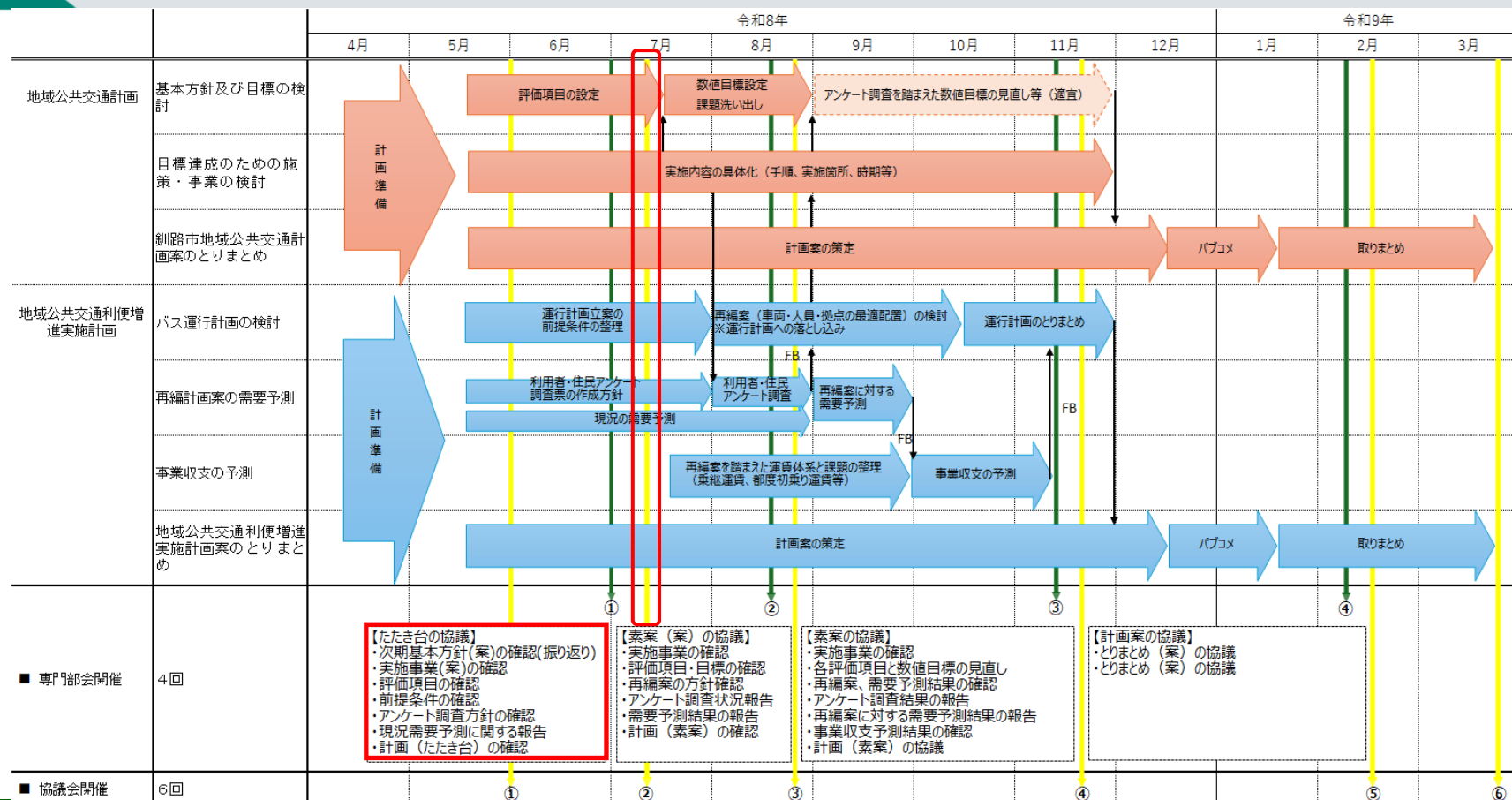
令和8年度 第2回 釧路市地域公共交通活性化協議会

地域公共交通計画及び バス路線網再編について

開催日時：令和8年7月17日（金） 14:00～

開催場所：KKSコンベンションセンター3階研修室

■ 本年度のスケジュールと本会議での確認事項



1. 釧路市地域公共交通計画について

○釧路市地域公共交通計画【骨子案】

章番号	タイトル	記載項目	記載内容
1	計画の概要	○計画の目的 ○計画の区域 ○計画の期間 ○計画の位置付け ○前計画の評価	・現計画からの目的・区域・期間・位置付けの更新。 ・前計画で設定した評価指標に基づく評価結果の明示
2	上位・関連計画に示されたまちづくりの方向性	○上位計画・関連計画	・上位計画である「釧路市まちづくり基本構想」、関連計画である「第2次釧路市都市計画マスタープラン」、「釧路市立地適正化計画」、「釧路市コンパクトなまちづくりに関する基本的な考え方」などにおける地域公共交通関連の内容を明記
3	釧路市及び地域公共交通の現況	○釧路市の現況 ○地域公共交通の現況	・国勢調査や住民基本台帳、国土数値情報などの統計情報を用いて、釧路市の現況を提示 ・釧路市における鉄軌道、路線バス、タクシー、デマンド交通など交通ネットワーク情報を提示
4	各種調査結果	○住民アンケート調査 ○公共交通利用実態調査 ○事業者ヒアリング調査	・現状の買物・通院等における移動実態、及び今後の釧路市の地域公共交通のあり方等を把握する住民アンケート調査結果概要を提示 ・釧路市内にて営業運行している路線バスのうち主要2路線の利用状況調査結果概要を提示。 ・釧路市地域公共交通に関する課題を収集する事業者ヒアリング調査結果概要を提示
5	現況の考察と課題の整理	○現況の考察・公共交通に関する課題の整理	・現況における釧路市地域公共交通に関する現況まとめとともに、課題を整理
今年度の検討項目	6	基本的な方針および目標 ○基本方針 ○基本方針に係る施策	・釧路市における上位計画や公共交通課題を踏まえて、釧路市地域公共交通計画の基本的な方向性を明示。また、今後5年間で実施していくべき、基本方針に係る施策を明示
	7	事業の推進 ○今後の取組内容 ○取組スケジュール	・基本方針に係る施策を具体化し今後の取組内容として整理するとともに、施策実施によって期待される効果や施策を実施する主体を明示し、各取組のスケジュールを整理
	8	計画の評価 ○評価指標の設定 ○評価手法・方法	・基本方針毎に、計画進行による成果を評価する評価指標を設定し、その評価手法・方法を明示。また、現況値を算定するとともに、施策を実施することによって得られる成果目標値を設定

1-1. 次期基本方針(案)の確認(振り返り)

(1)現計画の基本方針と評価結果

現計画の基本方針に対して、各施策を実施しているが、「基本方針5:釧路圏域の交流・連携を支える広域公共交通軸の確保」を除く全ての方針で評価値が未達成であるため、継続して施策に取り組んでいく必要がある。

現計画の基本方針		評価				
基本方針	施策	評価指標	評価値			達成・未達成
			現況値(H28)	目標値(R8)	現結果(R8.1)	
基本方針1：市内拠点を中心とした公共交通軸の活性化と乗換拠点の機能強化による持続可能な公共交通網の形成	●わかりやすく効率よく拠点間を連絡するバス路線網への再編 ●乗換拠点の機能充実 ●市内拠点等を結ぶ地域や利用者ニーズに応じた効果的なバス運行の実施 ●鉄道との接続を考慮したバス運行の充実	①市民1人当たりのバス利用割合	7.30%	8.00%	6.89%	未達成
		②現状のバスに対する総合的な満足度	5.90%	15.90%	8.70%	未達成
		③バスの利用者数	4,693千人	4,000千人	3,604千人	未達成
		④公的資金が投入されているバスの収支率	58%	61%	44%	未達成
		⑤バスへの公的資金投入額	300,177千円	259,000千円	276,702千円	未達成
基本方針2：迷わず乗れる、快適に乗れる公共交通の利用環境整備	●使いやすくなりやすい運賃体系の構築 ●円滑な運賃支払い方法の推進 ●わかりやすいホームページやバスマップへの更新 ●交通拠点等でのわかりやすい情報案内・誘導の実施 ●バスロケーションシステムの導入 ●バスシェルダーの整備 ●地元商店会等と連携したバス待合環境の整備	⑥市民1人当たりのバス利用割合	7.30%	8.00%	6.89%	未達成
		⑦バスシェルダーの設置箇所数	10箇所	15箇所	14箇所	未達成
		⑧バス停の環境に対する満足度	2.30%	12.30%	9.20%	未達成
基本方針3：公共交通と関わる意識の醸成及び機会の創出	●モビリティ・マネジメント事業の実施 ●地域住民による公共交通のサポート ●主要施設等との連携による公共交通利用のきっかけづくり ●高齢者の移動を支援する公共交通の仕組みづくり	⑨公共交通に関するイベントの開催回数	1回/年	3回/年	6回/年	達成
		⑩地域住民等と連携したバス停環境の改善件数	—	3件/年	1件/年	未達成
基本方針4：交通不便地域における効率的で利便性の高い生活交通の確保	●生活交通の導入検討 ●スクールバス、患者輸送バス等の活用検討	⑪バスの運行経路や行き先に対する満足度	6.10%	16.10%	9.7%	未達成
基本方針5：釧路圏域の交流・連携を支える広域公共交通軸の確保	●観光・交流の促進に向けた交通環境の整備 ●広域的な交通手段の確保と連携強化	⑫バス利用者に占める観光目的の割合	2.90%	5.80%	6.93%	達成

1-1. 次期基本方針(案)の確認(振り返り)

(2) 残存する又は新たに確認した問題点・課題

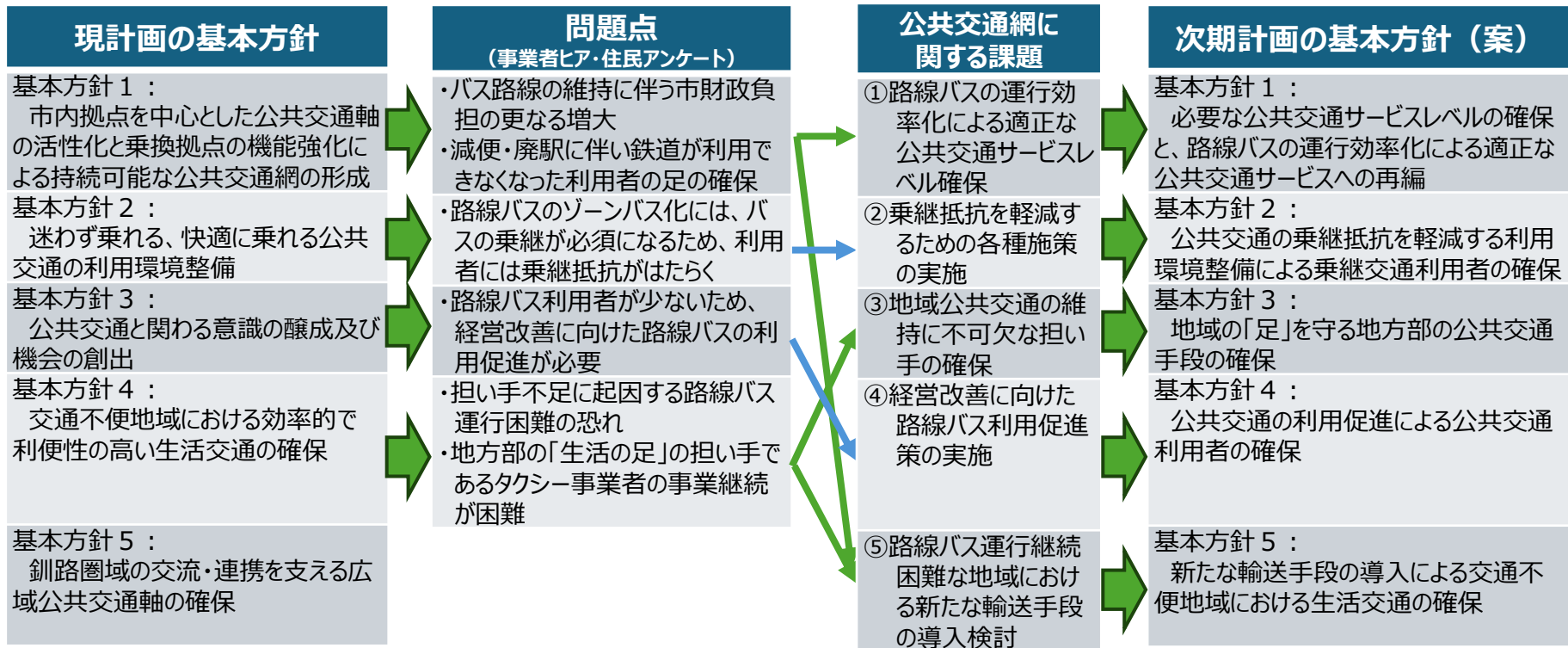
- 基本方針1～4は評価値が未達成であったため、施策について継続して実施していくものとする。(円滑な運賃支払い方法の推進(WAONの導入)やバスロケーションシステムの導入など導入済の施策は、維持・改良を実施していくものとして継続実施する)。
- 「基本方針5:釧路圏域の交流・連携を支える広域公共交通軸の確保」の施策は、上位計画にて継続して実施する。

現計画の基本方針		残存する又は新たに確認した問題点・課題
基本方針	施策	
基本方針1： 市内拠点を中心とした公共交通軸の活性化と乗換拠点の機能強化による持続可能な公共交通網の形成	●わかりやすく効率よく拠点間を連絡するバス路線網への再編⇒〔継続〕 ●乗換拠点の機能充実⇒〔継続〕 ●市内拠点等を結ぶ地域や利用者ニーズに応じた効果的なバス運行の実施⇒〔継続〕 ●鉄道との接続を考慮したバス運行の充実⇒〔継続〕	■「利用者ニーズに応じた効果的なバス運行の実施」について改善余地が残る。 ■現在、釧路市内のゾーンバス化は途上段階であり、ゾーンバスの拡大に向けて乗継抵抗軽減施策の実施も重要。 ⇒継続した対策が必要 ・遅い時間帯の増便要望（飲食店からの帰宅便、部活終わりの帰宅便、特急到着後の帰宅便） ・通学利用便の利便性向上（大楽毛線の混雑解消、高校生の通学にダイヤが合わない） ⇒増便対策済みのため、現状の推移を見た上で今後の対応を検討
基本方針2： 迷わず乗れる、快適に乗れる公共交通の利用環境整備	●使いやすくわかりやすい運賃体系の構築⇒〔継続：要協議〕 ●円滑な運賃支払い方法の推進⇒〔継続：要協議〕 ●わかりやすいホームページやバスマップへの更新⇒〔継続〕 ●交通拠点等でのわかりやすい情報案内・誘導の実施⇒〔継続〕 ●バスロケーションシステムの導入⇒〔継続：要協議〕 ●バスシェルターの整備⇒〔継続〕 ●地元商店会等と連携したバス待合環境の整備⇒〔継続：要協議〕	■「円滑な運賃支払い方法の推進」や「わかりやすい情報案内・誘導の実施」について改善余地有。 ■現在、釧路市内のゾーンバス化は途上段階であり、ゾーンバスの拡大に向けて乗継抵抗軽減施策の実施も重要。 ⇒継続した対策が必要 ・WAONについては、suicaやkitakaなど交通系ICを使うようにしてほしい。など ・バスロケーションシステムについては、読み込みに時間がかかりすぎて実用的でない。確認したいバスの情報が無い事がある。など
基本方針3： 公共交通と関わる意識の醸成及び機会の創出	●モビリティ・マネジメント事業の実施⇒〔継続〕 ●地域住民による公共交通のサポート⇒〔継続〕 ●主要施設等との連携による公共交通利用のきっかけづくり⇒〔継続〕 ●高齢者の移動を支援する公共交通の仕組みづくり⇒〔継続：要協議〕	■「路線バスふれあいイベントの実施」「おでかけバスポート70」制度の導入」など、各種対策を実施し効果も得ているが、今後、釧路市内のゾーンバス化を拡大していく上で、住民理解を深める対策を進めていく必要がある。 ⇒継続した対策が必要
基本方針4： 交通不便地域における効率的で利便性の高い生活交通の確保	●生活交通の導入検討⇒〔継続〕 ●スクールバス、患者輸送バス等の活用検討⇒〔継続〕	■「生活交通の導入検討」について改善余地が残る。 ■事業者ヒアリングでは、地方部の「生活の足」を担う事業者の事業継続も課題となっており、交通不便地域の移動需要や事業者の状況も加味して継続的な対策が必要な状況。 ⇒継続した対策が必要
基本方針5： 釧路圏域の交流・連携を支える広域公共交通軸の確保	●観光・交流の促進に向けた交通環境の整備⇒〔上位計画にて継続〕 ●広域的な交通手段の確保と連携強化⇒〔上位計画にて継続〕	■都市間バスは運行・維持されている。観光移動の視点からは、実態としてレンタカーやタクシー利用により対応。 ■上位計画となる「北海道釧路・根室地域公共交通計画（R5～R9）」では、「地域住民や来訪者の広域移動を支える広域交通の維持・確保」を基本方針①に立てて施策を進めている。 ⇒対策は、「北海道釧路・根室地域公共交通計画」にて実施

1-1. 次期基本方針(案)の確認(振り返り)

(3) 公共交通網に関する課題と次期計画の基本方針(案)

次期計画の基本方針(案)は、現計画の基本方針の評価結果や事業者ヒアリング・住民アンケートから得られた問題点から公共交通網に関する課題を抽出し、下記5つの基本方針(案)を提示した。



1-2. 施策(案)について

昨年度に提示した施策と、それに関して専門部会で示された検討課題は下表のとおりである。

これらの**施策を具体化**し、今後の取組内容として整理するとともに、その効果や実施主体を明確化していく必要がある。

⇒ **別添資料3**

次期計画の基本方針(案)	対応する施策(案)	施策(案)に関する検討課題
基本方針1：必要な公共交通サービスレベルを確保と、路線バスの運行効率化による適正な公共交通サービスへの再編	○運行効率化による適正なバス路線網への再編(ゾーンバス化)〔継続〕 ○乗継拠点(待合施設)の整備〔継続〕 ○鉄道の減便・廃駅も考慮したバス運行の充実〔継続〕	◆必要な公共交通サービスレベルの維持・確保のためのバス事業者による取組 ◆最低限必要なバス路線を確保し、かつ運行効率化による適正なバス路線網への再編 ◆駅前拠点を中心とし、先の将来を見据えた街づくりも考慮した路線網の再編 ◆乗換拠点間を結ぶ路線の有効性も考慮したバス路線網の再編 ◆運転手不足の中での効果的な乗継拠点の最適配置
基本方針2：公共交通の乗継抵抗を軽減する利用環境整備による乗継交通利用者の確保	○わかりやすいホームページやバスマップへの更新〔継続〕 ○乗継接続性の確保・乗継案内の充実〔継続〕 ○バスシェルターの整備〔継続〕 ○使いやすわかりやすい運賃体系の構築〔継続:要協議〕 ○乗継に対応したキャッシュレス決済導入・更新〔継続:要協議〕 ○バスロケーションシステムの改善〔継続:要協議〕 ○地元商店会等と連携したバス待合環境の整備〔継続:要協議〕	◆他のIC導入に関しては、他地域の動向なども見つつ導入を検討 ◆バスの乗換拠点だけではなくサイクリングターミナルなどのモビリティハブとしての機能も考慮した乗継拠点整備 ◆利用者目線での情報発信(緊急時、災害時、悪天候時)の取組検討
基本方針3：地域の「足」を守る 地方部の公共交通手段の確保	○公共交通の担い手確保に向けた施策支援【新規】 ○地方部の交通事業者の事業継続支援【新規】	
基本方針4：公共交通の利用促進による公共交通利用者の確保	○モビリティ・マネジメント事業の実施〔継続〕 ○地域住民による公共交通のサポート〔継続〕 ○公共交通利用イベントの実施〔継続〕 ○高齢者の移動支援策の実施〔継続:要協議〕 ○遅い時間帯のバス運行検討【新規】	◆運転手を増やすことが難しい中、遅い時間帯の公共交通機関として、ライドシェアなどの方法も含めた対処の検討(遅い時間帯での公共交通確保に向けて、末広町での乗合タクシーの実現を検討(仕組みづくり、料金体系、担い手のマッチングなど)) ◆普段バスを利用していない人への利用促進の取組み検討(路線バスの利用促進イベントの開催他)
基本方針5：新たな輸送手段の導入による交通不便地域における生活交通の確保	○デマンド交通の導入検討〔継続〕 ○スクールバス、患者輸送バス等の活用検討〔継続〕 ○公共ライドシェアの導入検討【新規】	

1-3. 評価項目について

現計画では、各基本方針の成果を評価する指標として、それぞれ1～5指標を評価指標として設定していた。
評価では経年成果を見ていく必要があるため、統計に基づく定量的な指標とすることが望ましいことから、
 次期地域公共交通計画では、下記指標を設定することを提案する。

次期計画の基本方針		評価指標	
基本方針（案）	対応する施策（案）	評価指標（案）	評価指標の算定方法
基本方針1：必要な公共交通サービスレベルを確保と、路線バスの運行効率化による適正な公共交通サービスへの再編	○運行効率化による適正なバス路線網への再編(ゾーンバス化)〔継続〕 ○乗継拠点(待合施設)の整備〔継続〕 ○鉄道の減便・廃駅も考慮したバス運行の充実〔継続〕	①市民1人当たりのバス利用割合〔継続〕 ②バスの利用者数〔継続〕 ③公的資金が投入されているバスの収支率〔継続〕 ④バスへの公的資金投入額〔継続〕	・路線バス総輸送人員/住基台帳人口 ・年度実績 ・年度実績 ・年度実績
基本方針2：公共交通の乗継抵抗を軽減する利用環境整備による乗継交通利用者の確保	○わかりやすいホームページやバスマップへの更新〔継続〕 ○乗継接続性の確保・乗継案内の充実〔継続〕 ○バスシェルの整備〔継続〕 ○使いやすわかりやすい運賃体系の構築〔継続〕 ○乗継に対応したキャッシュレス決済導入・更新〔継続〕 ○バスロケーションシステムの改善〔継続〕 ○地元商店会等と連携したバス待合環境の整備〔継続〕	⑤市民1人当たりのバス利用割合〔継続〕【①と同様】 ⑥バスの利用者数〔継続〕【②と同様】 ⑦バスシェルの設置箇所数〔継続〕 ⑧地域住民等と連携したバス停環境の改善件数〔継続〕	・路線バス総輸送人員/住基台帳人口 ・年度実績 ・年度実績 ・年度実績
基本方針3：地域の「足」を守る地方部の公共交通手段の確保	○公共交通の担い手確保に向けた施策支援【新規】 ○地方部の交通事業者の事業継続支援【新規】	⑨公共交通の担い手確保に向けた施策支援件数【新規】 ⑩地方部の交通事業者の事業継続支援の有無【新規】	・年度実績 ・年度実績
基本方針4：公共交通の利用促進による公共交通利用者の確保	○モビリティ・マネジメント事業の実施〔継続〕 ○地域住民による公共交通のサポート〔継続〕 ○公共交通利用イベントの実施〔継続〕 ○高齢者の移動支援策の実施〔継続〕 ○遅い時間帯のバス運行検討【新規】	⑪モビリティ・マネジメント事業の実施件数【新規】 ⑫地域住民による公共交通のサポートの実施件数【新規】 ⑬公共交通に関するイベントの開催回数〔継続〕 ⑭おでかけバスポート70の利用者数【新規】 ⑮遅い時間帯のバス運行実績の有無【新規】	・年度実績 ・年度実績 ・年度実績 ・年度実績 ・年度実績
基本方針5：新たな輸送手段の導入による交通不便地域における生活交通の確保	○デマンド交通の導入検討〔継続〕 ○スクールバス、患者輸送バス等の活用検討〔継続〕 ○公共ライドシェアの導入検討【新規】	⑯デマンド交通利用者数【新規】	・年度実績

2. 釧路市地域公共交通利便増進実施計画について

○釧路市地域公共交通利便増進実施計画【骨子案】

章番号	タイトル	記載項目	記載内容
1	計画の概要	○計画の背景 ○目的	・現計画からの地域状況・交通状況の変化、取組状況を踏まえた背景・目的の更新
2	利便増進実施計画の基本的な考え方	○地域公共交通網の再編方針 ○バス路線網の再編手順	・バス路線の課題、地域公共交通の再編において取組むべき課題を整理し、再編の基本方針を提示 ・バス路線網の再編の手順を示し、再編対象路線の考え方・公共交通サービスレベルの評価方法等を提示
3	利便増進事業を実施する区域	○実施区域（釧路市全域）	・実施区域として、釧路市全域の公共交通の路線図を提示
4	利便増進実施計画で取り組む事業の内容	○事業概要 ○事業内容詳細	・基本方針に基づき、本計画で実施する地域公共交通利便増進事業の内容及び事業実施主体一覧を提示 ・提示した事業内容について、それぞれの取組内容の詳細を記載
5	事業の実施予定期間	○実施予定期間	・利便増進実施計画の終期にあわせて2027年度（令和9年度）から2031年度（令和13年度）であることを明示 ・段階的な再編計画実施の流れを整理
6	事業実施に必要な資金の額・調達の方法	○事業実施に必要な資金の額・調達の 方法	・運行経費、運賃収入、負担額の内訳（国・北海道・釧路市・事業者等）、補助制度（地域間幹線系統補助、地域内フィーダー系統補助、北海道生活交通路線維持対策事業費補助）
7	事業による効果	○事業の効果 ○目標値の設定	・路線再編、乗換拠点整備、路線変更、利用環境の整備、生活交通の確保等により期待される事業の効果を整理 ・事業実施後の効果検証を行うための目標値を設定
8	公共交通計画に関連して 釧路市が実施する支援の内容	○釧路市が実施する支援内容	・地域公共交通計画に関連して、釧路市が実施する支援内容を提示（例：モビリティマネジメント、バス待合環境の整備、有償旅客運送の導入・・・等）

2-1. バス路線網再編について

(1) 現計画に基づく再編の進捗状況

■現状:(STEP2)を概ね完了

- 幹線系路線は既存の路線バスを活用(いわゆるゾーンバスは未導入)
- その他支線化の対象路線については再編完了
- 拠点は市立病院以外は整備済み

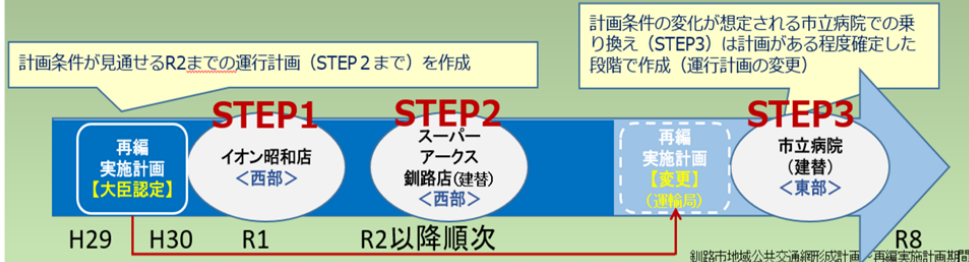
■次期計画:次ステップ(STEP3)の内容を実施

- 幹線系路線:ゾーンバスの導入
- ゾーンバスの代替としていた幹線系路線の再編(支線化)
- 市立病院を拠点としたゾーンバス化の検討

《段階的に運行サービスを高めるバス路線網の再編計画の基本的な考え方》



再編実施計画はSTEP2までの運行計画を作成



2-1. バス路線網再編について

(2) 地域公共交通網の再編方針 ⇒ 別添資料4

1. バス路線別の乗降客数の推定(現況再現)

・地域間バス流動・バス路線別乗降客数の推定

2. 路線再編の検討

(1) ゾーンバス化の検討

・複数路線の合流箇所を乗り換え拠点とした、ゾーンバス化（幹線／支線のネットワーク再編）の検討

- ① 既存計画の妥当性の確認
- ② 新たなゾーンバス化の検討

(2) 将来需要予測

ゾーンバス化後の需要予測（全路線実施）

- ・乗り換え抵抗等を考慮
- ・将来人口の変化による補正

(3) 運行内容の検討

・ゾーンバス化によるサービスレベル向上に資する運行内容の検討

- 運行頻度
- 運行形態(路線バス、コミュバス、デマンド等)
- 車両サイズ 等

■ サービスレベルマトリクスとの照合
・再編後の公共交通サービスが、地域・地区別に必要なサービスレベルを満たしているか検証

3. 対策前後の比較検証

・再編実施による利用者数・収支の変化等を検証

2-1. ゾーンバス導入に係る路線バス再編方針(仮)

① ゾーンバス導入区間の設定

- 幹線系として、下記乗継拠点を接続する2系統のゾーンバスを導入する。
 - 幹線系統その1:イオン昭和店～市立病院、 幹線系統その2:イオン昭和店～桜ヶ岡通



② 再編検討対象系統の選定

- 釧路市内線のうち、幹線系統と運行経路が重複する系統について、乗継拠点より郊外方面の区間を支線化の検討対象とする。

※幹線系統と運行経路が重複する系統であっても、「主に、朝・夕に通勤・通学利用のために運行している系統」、「幹線系の乗継拠点の中間点から運行経路が重複する系統」、「再編により大部分の利用者が支線系統に乗ってすぐに乗り換えなければならなくなる系統」など、系統の運行目的、経路重複の状況等も考慮した上で、支線化の検討対象系統を選定する。



③ 再編案の検討

- 上記の再編検討対象系統について再編案を作成し、再編後の需要推計、収支予測等による評価を行った上で最終的な再編案を決定する。

2-2. アンケート調査について

(1) 調査目的

- 再編計画実施に伴う路線バス利用者の利用意向変化を把握することを目的としたアンケート調査を実施し、再編実施後の路線バス需要推計および事業収支算定の基礎資料とする。

- 「乗換え」が必要になることによるバス利用意向の変化
 - ゾーンバス導入による「乗換え」発生によって、従来の直通バス利用からのバス利用意向がどのように変化するかを把握する。
- 「利用促進策」を実施することによるバス利用意向の変化
 - 路線バスの「利用促進策」により、従来利用者及び非利用者のバス利用意向がどのように変化するかを把握する。

※ 令和7年度の住民アンケートとの違い

- 令和7年度に実施したアンケート調査では、公共交通計画立案に係る利用者ニーズ把握及び現計画の評価を行うための基礎データ収集を主目的として、「住民の移動実態」や「現行路線バスサービス満足度」等について把握。
- 令和8年度のアンケート調査では、「再編計画実施に伴う乗換え利用」、「利用促進策の実施」によるバス利用意向変化を把握することを目的とした調査を実施。

2-2. アンケート調査について

(2) 調査方法

- 乗換え ⇒ 既存バス利用者アンケート
 - ゾーンバス導入の影響を受ける既存バス利用者を対象としたアンケート調査により把握
- 利用促進策 ⇒ 既存バス利用者アンケート、市民アンケート
 - 既存バス利用者アンケートに加え、無作為抽出した市民全体を対象としたアンケート調査で把握

調査内容		調査対象	
		既存バス利用者アンケート (既存需要：再編対象路線)	市民アンケート (既存・潜在需要)
乗換え	乗換えが必要となることによるバス利用意向の変化	○	—
利用促進策	利用促進策を実施することによるバス利用意向の変化	○	○

2-2. アンケート調査について

(3) 調査内容

※調査内容の詳細は、今後、専門部会で意見交換を行う

■ 「乗換え」によるバス利用意向の変化

- 待ち時間、初乗り運賃2回等の乗換え条件を提示し、バス利用の継続意向を確認する。
- 路線再編案を検討した結果、デマンド化転換が想定される場合は、デマンド交通の利用意向についても確認する。

■ 「利用促進策」によるバス利用意向の変化

- 利用促進策の内容を提示し、バス利用の意向変化(今よりも増えるか否か)を確認する。

施策区分	調査対象の施策（例）
運行ダイヤ	「遅い時間帯のバス運行」
環境整備	「バス停の上屋やベンチの整備」、「店舗等への待合い室の整備」
ソフト対策	「乗継拠点における電光掲示板によるバス運行情報の提供」、「スマートフォン等によるバス運行情報の提供」、「キャッシュレスによる乗継運賃支払い」
料金	「高齢者のバス移動に係る支援(運賃割引)」

2-2. アンケート調査について

(4) 既存バス利用者アンケート

■ 調査対象

- ゾーンバス導入により、従来直通運行していた系統が分割され、乗継拠点での乗換えを要するようになる路線の利用者とする。

※調査対象路線は、再編路線の検討結果に基づき選定する。

■ 調査方法

- 平日、休日各1日の計2日間、調査員が対象路線のバスに乗車し、乗客にアンケートを手渡して郵送回収する
※QRコードを表示したチラシを同封しWEBによる回答も可能とする。
- 上記に加え、バス車内やバスターミナルにアンケート用QRコードを表示したチラシを掲示する。

2-2. アンケート調査について

(5) 市民アンケート調査

■ 調査対象

- 釧路地区の8地域及び、阿寒地区及び音別地区の2地区に居住する市民をアンケート対象とする。

■ 調査方法

- アンケート票3部を同梱した封筒を対象世帯に郵送配布し、郵送にて回収する。
- 配布数は、各地区160世帯、市内全体で1,600世帯とし、無作為抽出を行う。

※ Web での回答も可能とし、アンケート用紙にWeb 回答フォームへリンクするQRコードを表示する。

※ イベントでのチラシ配布等による対応も検討する。



2-3. バス路線再編にあたっての前提条件について

(1) 供給サイドの制約条件

■理想的な運行計画案を立案するためには、供給サイド（各路線バス事業者）の運行状況を把握しておく必要がある。バス保有台数やバスドライバーの状況も鑑みて、余裕を持った運行計画に見直していく必要がある。

⇒ 今後は、最近の運行状況や路線再編にあたっての相談・確認など、**バス事業者と事務局の間で、適宜ヒアリングを実施させていただきながら、実現可能なバス路線再編の検討を進める。**

くしろバス株式会社	阿寒バス株式会社
○バス路線数：33路線（釧路市内主要路線） ・利用者の利便性確保のため減便は避けたいが、補助金が縮小されると減便せざるを得ない。 ・利用者の利便性確保を第一に毎年路線の計画見直しを実施。 ○バス保有台数：66台（路線バス） ・登録30年超の車両もあるなど車両の老朽化が進行 ・WAONを導入しているが利用は15%程度 ○バスドライバー：137名（平均年齢56歳） ・50代（48人）60代（57人）が77%を占めており、5年後・10年度のドライバー不足が懸念	○バス路線数：15路線（釧路市内主要路線） ・イオン昭和店における乗継利用は2名/日程度となっている。乗継方法についても課題がある。 ○バス保有台数：90台（うち路線バス：58台） ・昨年十数台が廃車となった。登録30年超の車両も多く稼働しており、いつ不足してもおかしくない状況。 ○バスドライバー：90名（平均年齢55.5歳） ・50代（34人）60代（38人）が80%を占めている。特に地方営業所の乗務員不足が深刻。 ・運行管理者はほぼ60歳以上であり高齢化が進行。 ・今後人手不足による減便も考える必要がある状況。

※事業者ヒアリング結果より(令和7年9月)